

イエスが教える神殿

ヨハネ 2:13-25

ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。イエスは過越祭の間エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、人間についてだれからも証ししてもらわなければならないからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。

説教

キリスト教が世界に広がる教会となったのは「神殿礼拝」をしていないからです。ヨハネ福音書ではキリスト教の礼拝スタイルのわけを、キリストの体が神殿だからだと説明しています。

イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。ヨハネ 2:21

世界中のキリスト教徒は神殿にお参りすることなく毎週日曜日に礼拝をしています。わたしたちが日曜日に礼拝するのは安息日だからという説明もありますが、キリストが復活されたのが日曜日だからというのが一番の理由です。また、礼拝堂がなくてもキリスト教徒は礼拝ができるのはイエスさまが御自身が神殿であると示され、復活されたからです。

きょうの福音の結びはこうなっています。

イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、人間についてだれからも証ししてもらう必要がなかったからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。ヨハネ 2:24-25

「何が人間の心の中」に潜んでいるのかをよく知っていたのでイエスさまは「イエスの名を信じる人たちを信用」していません。わたしたちにとってはズシンとくるイエスさまのみことばです。

わたしの父の家を商売の家としてはならない。ヨハネ 2:16

イエスさまがエルサレムにまだ神殿があった頃、こういって鞭をもって生贄の動物を売る商人や両替商を叱りました。

キリスト教徒は神殿のかわりになる礼拝堂を求めています。そして仮小屋のようなものでも礼拝堂ができれば、さらに大きな建物を望み、建物が立派になればパイプオルガンが欲しくなり、オルガンが立派になればふさわしい聖歌隊を編成し、教職者を増やし…と求めるものに際限はありません。まるで神殿に似たものをつくり、それを生業にする「商売の家」のようです。

イエスさまが指摘された「何が人間の心の中にあるか」を四旬節を過ごす私たち自身に問いかけてみましょう。
